

価格安定課 NEWS

～和牛を飼う人びと〈佐渡〉～ (佐渡牛の再興を願う人たちを紹介します)

佐渡は和牛の里でした。島内各地の放牧場を利用して夏の間は放牧を行い、冬は稲ワラと野乾草を主体に繁殖牛を飼い、生産した子牛を高千市場へ出荷して、佐渡牛の名声を高めてきました。

現在では牛を飼う人の高齢化に伴って、戸数、頭数ともに減少し、24カ月以上の繁殖雌牛が339頭で子牛生産頭数が312頭（うち受精卵移植で生まれた和牛子牛が52頭）という状況になっています。

こうした中で和牛生産こそ佐渡農業の大きな柱であると考え、すこしでも和牛を増やそうと取り組んでいる人たちがいます。

【相川共同牛舎利用組合】

北田野浦地区の和牛農家4戸で共同牛舎を建てました。現在18頭の繁殖牛を26頭に増やす計画です。4人の年齢は平均67歳と高いのですが、共同牛舎にすることで飼育管理作業を助け合うことができます。またお互いの牛の状態を見ながら飼育技術の見直しをして繁殖や子牛育成の向上を図ることができます。

この地域には規模の大きな繁殖経営もあることから今後は肉用牛ヘルパー制度の導入も検討して、お互いが助け合う牛飼い仲間になりたいと話合っています。



(相川共同利用牛舎)

【佐和田地区 渡部和男さん】

以前は酪農経営をしていた渡部さんは、大きなケガをして酪農をやめていましたが、牛舎や機械類そして牧草地もあることから平成17年に繁殖牛4頭を導入して和牛を始めました。水田の畔草や、稲ワラ、牧草と自給飼料は十分です。現在は勤め人の息子さ

んとも相談して徐々に規模を拡大していくことを考えています。繁殖や子牛育成の技術もあるうえに、自給飼料の基盤と牛舎がありますから、地域の肉用牛農家の中核的存在になることが期待されます。

【赤泊地区 須田甚一さん】

開拓地で長年養蚕をやってきた須田さんは、かつて桑畑だった土地を整地して牧草地にしました。平成18年には自力で牛舎を建設して現在3頭の繁殖牛を飼育しています。佐渡の島内でも雪が多い場所ですが、65歳になって和牛をやりたいという須田さんを家族みんなが応援しています。



(自力で建てた牛舎)

【羽茂和牛組合】

牛飼い仲間11戸で組織する和牛組合は、嶋倉組合長を中心によくまとまっています。

地域肉用牛振興対策事業によって平成16年に大野富子さん、平成17年に作沢均さんが牛舎を拡張して牛を増やしました。また、小泊地区の金子勇さん、博子さん夫妻は牛の飼い方の勉強にとっても熱心です。自力で畜舎を増築して、平成19年には6頭に増やします。畔草や野乾草をふんだんに給与して、母牛と子牛の管理に手抜きのない金子さんは高千市場に優良な子牛を出荷しています。

【肉用牛振興対策事業の活用】

平成16年度から当協会では実施している肉用牛振興対策事業により、優良繁殖雌牛の導入や離島肉用牛振興対策、簡易施設等整備による畜舎の拡張などで佐渡における和牛振興に役立ってきました。

今後は肉用牛ヘルパー制度を創設して①飼料生産収穫・調製作業、②飼養管理の代行、③削蹄作業、④除角・去勢、⑤子牛の市場出荷、⑥稲ワラ収集、⑦堆肥運搬など和牛飼育者の抱える労力的な悩みを解消しながら、遊休農地を放牧や飼料生産に振り向けるなど、事業の活用を和牛生産者と関係団体が一緒に検討し、佐渡牛の振興を図りたいものです。